

キャラクター名 プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ サラマンダー	ワークス	レネゲイドビーイングA	カヴァー	ペット
オプション		年齢	20よりは下	性別	男
覚醒	犠牲	衝動	闘争	初期侵食率	45%
出自	突然の覚醒	経験	人類の調査	邂逅	契約

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	70
肉体	5	1	2		4	12	行動値	3
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	3
精神	1	0	0			1	戦闘移動	8
社会	2	0	0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	1		RC			交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費	
実験体	P	N			
羅刹	P	N			
原初の獣 (プライマルビースト)	P	遺志	N	隔意	
	P	N			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	4	残り財産P:			

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
ヒューマンズネイバー	1							
効果:								
オリジン;アニマル	1							
効果:								
完全獣化	1							
効果:								
破壊の爪	1							
効果:								
獣の力	1							
効果:								
ハンティングスタイル	1							
効果:								
獣の王	1							
効果:								
炎神の怒り	2							
効果:								
フェニックスの翼	2							
効果:								
終末の炎	2							
効果:								
復讐の刃	2							
効果:								
コンセントレイト:キュマイラ	2							
効果:								
巨人の生命	5							
効果:								

「我輩は狼なのである。正確にはレネゲイドビーイングなのであるが、それでも我輩は狼なのである」
「我輩、あの狼に頼まれたのである。この身体を使っている以上、我輩はその頼みを叶えるのである。物事は全て、ギブアンドテイクなのである」

日本のどこかの市に生息する犬の姿をしたレネゲイドビーイング。一応、喋る。姿を犬の品種限定で自在に変えられるため、姿が一定しないのだが、今はシベリアンハスキーの姿を象っている。人間にもなれるはずだが、本人が人間の姿になるのを拒否しているため、人間時の姿は不明。年齢を気にせずに過ごしてきたため、自分の年齢が分からない。性格はちょっと尊大気味。しかし、どこかポンコツ臭も漂っている。UGNはちょっと苦手。自分のことを狼だと思っており、犬と呼ばれると狼だと訂正する。人類へ興味を抱いており、人間社会の中で過ごしている。そして、そんな彼の人間への接触方法は、子守である。しかし、対象は選んでおり、周囲に誰もいない中で一人遊んでいる子供とのみ接触している。そのおかげが、彼が住む都市では子守狼の都市伝説が流れている。余談だが、現在の彼は子守狼として活動する時以外は、UGN支部でペットとして暮らしている。なお、子守狼の内容は以下の通りである。

日本のとある都市には、子守狼と呼ばれる一匹の奇妙な犬が存在するとされている。その犬は周囲に誰もいないところで遊ぶ子供の前に現れて、その子の家族が迎えに来るまで遊びの相手をするのだ。その犬の知性は高く、子供と会話を行うことすらあるという。また、声は一律して男の声なのだとか。子守狼と接触したと主張する子供たちの体は程よく疲れており、また公園には犬の足跡が残っていることが多いため、実在しているのではないかとされている。しかし、子供の前にしか姿を現さず、また存在を突き止めようとした者はみな何者かの手によって気絶させられるため、存在を確認させることはできていない。また、関連性があるため、ここに記載するが、子守狼がいるとされている都市では、子供の誘拐事件が人知れずに解決することが多い。その場合、誘拐犯たちはみんな倒されており、子供たちは狼が自分を助けてくれたと一律して主張する。その犬の姿は一定していないが、全員が全員、犬が助けてくれたということだけが共通しているため、これも子守狼の仕業ではないかと推測されている。

